

マレーシアに来て19週目、先週よりサバ州のコタキナバルにある友人宅でホームステイをさせて頂いている。KLでは丁度タイプーサム（ヒンドゥー教の祭り。体に針を刺し、市内にあるバトゥ洞窟の祠へと信者が練り歩く。本国インドではその危険性から禁止された。）が行われており、もう少しKLに滞在して見ておくべきだったかなと何か損をした気分である。

サバ州は東マレーシアの北部北西に位置しており、定年後の居住先や観光地として人気ののどかな街だ。今週はサバ州にきて気付いたことを箇条書きにしてみようと思う。

#### ・人種

KLとの一番の違いは人種の比率にあるようだ。こちらではネイティブ（ネイティブとはKadazan, Dusun, Murut, Bajau等の土着の人々で20以上程の民族がいるらしい。日本でいうアイヌ民族のようなイメージ。主に都市から離れた地域に住んでおり、昔は民族ごとに生活していたが現在では段々と社会に溶け込んできている。各民族ごとの文化は色濃く、各時期に行われる祭りは市民にとっても親しみ深い娯楽となっている。例えばKadazanは5月に収穫祭を行うが、その際に踊りや美人コンテストが開催される。）と中国系のマレー人が主であり、マレー系やインド系は滅多に見かけない。そのためキリスト教徒の数が多く、文化もよりキリスト教、中国系の色が濃くなっている。こちらにもムスリムはいるのだが、KLほど厳格ではないようで、街中でイスラム教の放送を聞かないし、レストランでもハラールの文字を見かけない。

#### ・インフラ

コタキナバルは年々発展しているが、それでもインフラは未だに整っているとは言えないようだ。インフラの施設は電気水道ガス全てが政府の管轄であるが、管理システムが整っていないのか住宅街では突然の停電や断水が割と頻繁にあり、滞在している家では今週で既に2回停電があった。断水対策の為すべての家が家庭用の水のリザーブタンクを屋外に設置している。

#### ・交通

こちらには電車が無く、唯一の交通手段は車だ。バイクも走ってはいるが、道路の舗装状態が整っていないため車の方が安全ということらしい。特徴的なのは十字型ではなくラウンダバウトという円形型の交差点が使用されている点で、信号は使わずにドライバー同士の意思確認で行き来をしている。交通量が少ないためにこのシステムが通用しているのだろうが、今後街の発展と共にKLのように十字型の交差点が普及していくのかもしれない。

#### ・不法移民

サバ州はフィリピンと近い位置にあり、船で行き来がしやすい距離にある。その為フィリピンの難民達（路上家族など）が船で近くの島を経由しながらこの町へと辿り着く。フィリピンとは同じ仕事でも給料が3~4倍ほど違うらしく、例え不法移民としての立場であっても本国よりも余程良い暮らしが出来るため、年々侵入してくる不法移民の数が増加する一方らしい。移民が増えることで犯罪率の増加、職の競争率が上がるなどの問題があるが、かといって本国に送り返すのも手間と費用が掛かるため、政府としても対策に頭を悩ませている。こちらで教育を施し国民として迎え居れ、彼らの為の雇用を増やす事が出来れば犯罪の抑制にも繋がると思うのだが、移民に対する反感もあり、現状そのような教育活動は個人による草の根の活動の範囲となっている。 小倉



滞在先より車で15分ほどの距離にあるTanjung Aru Beach。ビーチは観光客で溢れていた。



各家庭に設置してあるリザーブタンク。メンテナンスは半年に一回ほどらしい。